

講義名	事例演習			授業形態	
担当教員	長田 貴仁	開講期・曜日・時間	後期 金曜日 1 時限		
		単位数	0	履修開始年次	1 年生
主題と概要					
主題：事例研究の方法と実践 概要：ビジネス・ジャーナリズムとアカデミズムの両方を経験した「アカデミック・ジャーナリスト」が、両者の相違点を踏まえ、ケーススタディの実際に触れる。さまざまなケース（事例）を通して、ビジネス・リベラルアーツ（ビジネス関する教養）も重視した講義内容とする。 ケースを体系的に見るのではなく、地味を変えることで洞察（Deep Insight）する。 頭の体操をする講義だと考え、大いに会話を楽しんでもらいたい。1限の講義だけに目が覚めることでしょう。					
到達目標					
1．経営学における事例の扱い方について理解が深まる。 2．事実を洞察する能力が高まる。 3．リサーチ・クエスション、ディスカッションの技術が身につく。 4．「ジャーナリスティック・ケース」と「アカデミック・ケース」を比較検討できるようになる。 5．ビジネス・リベラルアーツ（ビジネス関する教養）を修得できる。					
提出課題					
期末レポート：本講義で学び取った内容に基づき、自身の研究にどのように役立てるか、とテーマについて執筆してもらう。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
教授側から一方的な講義を展開するだけでなく、すでにリサーチしてきた現代的課題について、受講生から質問、問題提起を行ってもらい、それについて、解説、議論していくというインタラクティブな講義を行う。その場でフィードバックする。					
評価の基準					
期末に提出してもらう自筆ケース：40%。 質問、問題提起、ケース・ディスカッションなどにおける積極姿勢と洞察力：60%。					
履修にあたっての注意・助言他					
教科書を自主的に読み進めて欲しい。読んでいることを前提に講義を展開する。そこから学び取った内容を期末レポートに書いてもらう。 毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「日経ビジネス」、「東洋経済」、「ダイヤモンド」、「プレジデント」、「エコノミスト」などのビジネス誌も定期的に目を通していき、常に「情報武装」しておくことが望ましい。 テーマを決め、それに関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。 欠席する場合は、事前に届け出るように。					
教科書					
.ビジネス・ケース・ライティングの方法論的研究.		長田貴仁	中央経済社/碩学会/碩学会	3000	9784502422812
参考図書					

その他	
適宜、授業中に資料を配布する。	
授業計画	
1．オリエンテーション 2．ジャーナリズムと経営学の「建設的組み合わせ」 3．「ビジネス・ジャーナリズム」とは何か 4．ジャーナリスティック・ケース論 5．アカデミック・ケース論 6．「ケース・ライティング」の実践 7．「概ませるための「エッセイ」」 8．「合理性と例外」を超える洞察 9．「社会的影響力」を持つことの是非 10．オンライン・韓国時代 11．ネット・メディアに見る具体例 12．書籍に見る具体例 13．経営学と発見 14．どうする「修士論文」 15．まとめ （注）受講生からの質問、問題提起を中心に双方向型の講義を行うので、必ずしも上記の内容で固定されてはいない。	
授業形態（アクティブ・ラーニング）	
☐ ア：PBL（課題解決型学習）	☐ イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐ ウ：ディスカッション、ディベート	☐ エ：グループワーク
☐ オ：プレゼンテーション	☐ カ：実習、フィールドワーク
☐ キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
予習：授業中に行う質問、問題提起を考え、そのケースについて調べておくこと（1時間）。 復習：授業で得た知見を反映し、教科書を自主的に読み進めること（2時間）。	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
「知識を知識に転換することができ、論理的思考力を持った人材」を育成するため。 1．「情報発見・理解解決」に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる（情報収集力） 2．収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力） を高める。	
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
ケース分析を行う場合、表面的に読み取るのではなく、洞察する力を高めるため、教授が質問を連発する。	
実務経験の有無及び活用	
実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。	
備考	
留学生も多いことから、異文化間コミュニケーションに配慮した教育を行う。	